

# 評価結果報告書

## 地域密着型サービスの外部評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	11
1. 理念の共有	2
2. 地域との支えあい	1
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	3
4. 理念を実践するための体制	3
5. 人材の育成と支援	2
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	2
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	1
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	1
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	6
1. 一人ひとりの把握	1
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	2
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	2
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	11
1. その人らしい暮らしの支援	9
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	2
合計	30

事業所番号	1290200045
法人名	有限会社松丸商事
事業所名	グループホーム アリス
訪問調査日	平成 19年 12月 23日
評価確定日	平成 20年 2月 5日
評価機関名	特定非営利活動法人 日本高齢者介護協会

### ○項目番号について

外部評価は30項目です。

「外部」の列にある項目番号は、外部評価の通し番号です。

「自己」の列にある項目番号は、自己評価に該当する番号です。参考にしてください。

番号に網掛けのある項目は、地域密着型サービスを実施する上で重要と思われる重点項目です。この項目は、概要表の「重点項目の取り組み状況」欄に実施状況を集約して記載しています。

### ○記入方法

[取り組みの事実]

ヒアリングや観察などを通して確認できた事実を客観的に記入しています。

[取り組みを期待したい項目]

確認された事実から、今後、さらに工夫や改善に向けた取り組みを期待したい項目に○をつけています。

[取り組みを期待したい内容]

「取り組みを期待したい項目」で○をつけた項目について、具体的な改善課題や取り組みが期待される内容を記入しています。

### ○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者（経営者と同義）を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

## 1. 評価結果概要表

## 【評価実施概要】

事業所番号	1290200045
法人名	有限会社松丸商事
事業所名	グループホームアリス
所在地 (電話番号)	〒262-0043 千葉県千葉市花見川区天戸町688-1 (電話 043-250-3339)

評価機関名	日本高齢者介護協会		
所在地	〒113-0021 東京都文京区本駒込3-15-10		
訪問調査日	平成19年12月23日	評価確定日	2月5日

## 【情報提供票より】(19年 12月 23日事業所記入)

## (1)組織概要

開設年月日	平成19年3月1日			
ユニット数	1 ユニット	利用定員数計 9人		
職員数	13人	常勤 3人	非常勤 7人	常勤換算 5.2人

## (2)建物概要

建物形態	単独	新築
建物構造	木造平屋	
	1階建ての	1階部分

## (3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	60,000 円	その他の経費(月額)	20,000 円
敷金	無		
保証金の有無 (入居一時金含む)	有 280,000 円 無	有りの場合 償却の有無	有
食材料費	朝食	円	昼食 円
	夕食	円	おやつ 円
	または1日当たり 1,500 円		

## (4)利用者の概要(12月 23日現在)

利用者人数	9名	男性 6名	女性 3名
要介護1	3名	要介護2	1名
要介護3	3名	要介護4	1名
要介護5	0名	要支援2	1名
年齢	平均 74歳	最低 62歳	最高 87歳

## (5)協力医療機関

協力医療機関名	医療法人財団 晴山会 平山病院
---------	-----------------

## 【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

施設長の運営方針としては、「第2の家庭・第2の家族」をモットーとした穏やかな生活の中でその人らしい生き生きとした生活を目指し、利用者の有する能力に応じて自立した日常生活を営むことが出来るように、生活全般の援助を行うことを掲げております。また、このホームの利用者の特徴の1つは、9名中4名が「生活保護受給者」であり、月一回のマンツーマンでの事業所幹部と利用者・家族との入念な打ち合わせが運営面での重要な業務となっております。さらに、グループホーム協会内での各種研修や特定同業企業との親密な情報交換、行事(クリスマス会等)の交流等による人的結びつきは、「サービスの質の向上」を行なう上で、有効な機会になっていると考えられます。

## 【重点項目への取り組み状況】

重点項目	前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4) (今回が初回)
	① 今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4) 今回の自己評価は管理者が中心となり、総括責任者、計画作成担当者が実務のとりまとめを行っております。作成過程では、スタッフの参加を得て、各人の自由でかつ活発な意見の取り交わしを行っていることが、資料および面接等よりうかがえます。
重点項目	② 運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6) 平成19年5月6日の第1回運営推進会議より7月8日の第2回と、2ヶ月ピッチで会議が行われております。現在までに4回実施されておりますが、これまでは報告事項がほとんどであり、「家族」からの提案の汲み上げ等の積極的な意見聴取にもとづく課題の解決は今後に残されております。
重点項目	③ 家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8) 特に「家族会」等は組成されておられません。このホームの利用者の特徴の一つとしては、9名中4名が生活保護受給者であり、マンツーマンでの利用者・家族と事業所幹部との月1回の打ち合わせが重要な運営上の業務となっています。さらに花見川区役所との協議も運営面での比重の重い仕事となっております。
重点項目	④ 日常生活における地域との連携(関連項目:外部3) 町内会への参加はなされておられません。これまでお祭り等による地元との交流はさほど熱心に行われておりません。今後は運動会への参加、もちつき大会への参加等地元への交流のアピールが大事なポイントになると考えられます。

## 2. 評価結果(詳細)

(  部分は重点項目です )

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
<b>1. 理念と共有</b>					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	玄関スペースに「倫理綱領」とともに、グループホームとしての「私たちの理念」が張り込まれております。施設長の考え方としては、「第2の家族、第2の家庭」をモットーとした穏やかな生活のなかでその人らしい生き生きとした生活を過ごして戴くことをめざしております。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	平成19年3月の開設以降、運営方針である「利用者の有する能力に応じ、自立した日常生活を営むことが出来るよう、生活全般にわたる援助」を行うことを実現しつつある状態といえます。		
<b>2. 地域との支えあい</b>					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	これまで町内会への参加はなされておられません。「お囃子」など一部の催しを始めた段階といえます。[自己評価]にみるように当ホームの特色の一つである動物と暮らすという点で散歩等をご近所の方々とするはありますが、日常的なつきあいという所までは至っていないのが現状といえます。	○	今後の方向としては、「お祭り、もちつき大会、運動会、作品展」等様々な分野での地元とのコミュニケーション、交流が期待されます。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回が初めての外部評価となりますが、事業所幹部は今後の行政サイドの評価等を中心として積極的な意見交換を通じてのサービスの質の向上を目指しています。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	平成19年5月6日に第1回の推進会議が実施され、その後2ヶ月に1回のペースで会議は進められております。これまではメンバー紹介等の報告事項の議題が中心になっています。	○	今後は家族からの提案の汲み上げ等による課題の討議の実施が期待されます。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	当ホームは利用者の一部として生活保護受給者を対象(現在4名)としており、花見川区生活保護課との協議が必須となっております。さらに区福祉サービス課との打ち合わせ等行政との連携により、サービスの質の向上を図ろうとしています。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	現時点では、「家族会」は組成されておりません。おおむね月一回のマンツーマンの家族打ち合わせにより、利用者の健康状況等につき、きめ細かい報告がなされていることが資料等により読み取れます。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者が中心となって、月一回の事務所幹部と家族とが打ち合わせを行っております。	○	今後は「グループホームだより」といった、写真入りの通信(月一回程度)を発行することにより、ホームの各種たよりを各家族にお知らせするというようなPR活動が考えられます。
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	これまで職員の異動による利用者のダメージは発生しておりません。今後ともきめ細かい人間関係上の配慮が肝要と思われれます。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	県と市のグループホーム協会に加入し、協会主催の研修会にスタッフが参加しており、サービスのレベルアップを目指していることが各種資料および面接等より読み取れます。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協会での交流のほかに、特定同業企業との「クリスマス会」による交流会の実施等の情報交換を積極的に進めていることが面接等よりうかがえます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	入居前に体験入居などを活用し本人に不安のないようにして、家族・本人が納得してから入居されています。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者の尊厳を守り、共に生活していく場所であると理解し、お互いが協同しながら支えあって生活が出来るように場面づくりや声かけをしています。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の関わりの中で声かけ、把握に努めています。言葉や表情などからその真意を測ったり、確認するようにしています。意思疎通の困難な方には、家族や関係者から情報を得るようにしています。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	介護計画作成にあたっては、職員から「きづきシート」に記入してもらい、モニタリングや担当者会議、等で意見を収集し、又、面会を利用し家族からの意向を反映しています。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	介護計画の見直しについては、ケアマネ・介護職・施設長等で情報を確認し、家族や本人の要望を取り入れ、基本的には3ヶ月安定していれば6ヶ月間の見直しを行っています。又、状態が変化した際には検討、見直しを行っています。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援(事業所及び法人関連事業の多機能性の活用)</b>					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	併設している訪問介護事業所の下が高齢者住宅になっており、その人がその場所で暮らせるように必要時には支援をおこなっています。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域支援との協働</b>					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	医療関係との提携を組んでおり、診察・助言を頂いています。又、受診の際は職員が対応し受診記録なども記しております。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期にむけての方針については、職員との話し合いを行っております。訪問看護・医療との連携を密にして終末期に向けての支援に努めるよう努力されています。		
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
<b>1. その人らしい暮らしの支援</b>					
<b>(1)一人ひとりの尊重</b>					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員会議の場で、利用者の誇りやプライバシーを損ねないよう対応の徹底をはかっています。又、研修会等の参加により育成に努めるよう努力されています。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人ひとりの体調に配慮しながら、その日、その時の本人の気持ちを尊重して、できるだけ個別性のある支援を行っています。(将棋クラブ・農作業・収穫・園芸・ハモニカ等。)		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
<b>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</b>					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	メニューに関しては、利用者の好みを把握するように努め、考えるようにしています。食事の準備(調理・配膳等)や後片づけ等役割を見だし、一人ひとりの力が発揮出来るように支援しています。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	基本的には週3回(月・水・金)午前～午後と利用者の希望に応じて支援しています。		
<b>(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援</b>					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活の中でその方の出来ること・出来そうなことを職員は把握し、自分のことは自分で行うことで達成感を感じ意欲につなげるようにと支援しています。(食事の後片づけ・洗濯物取り込み・たたみ・部屋の掃除等)		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	初詣・お花見・外食会・一日2回の散歩と可能な方は希望に合わせての外出等と色々工夫され柔軟に対応されています。		
<b>(4) 安心と安全を支える支援</b>					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	当施設玄関前の道路は車の往来もあり危険が予測されるため、利用者、家族に説明し了解の下で玄関には鍵をかけています。利用者一人ひとりの居室、中庭への出入り口には鍵はかけておりません。	○	夜間に関しては止むを得ませんが、日中は鍵をかけなくても良いような工夫が望まれます。(センサーの設置により出入りのチェックをする方法など)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	平成19年9月1日に消防署員参加のもと、「防災訓練」が実施されております。防火管理責任者の資格を2名が取得しており、今後、更なる訓練の強化が期待されます。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者一人ひとりケアプランに沿って「生活介護記録」「ケアチェックシート」等が作成されて、一人ひとりの状態や、習慣に応じた支援がされています。ただし一日に必要な水分摂取量・食事摂取量・残さ量の記録はなされていません。	○	一日に必要な食事摂取量・食事残量・水分摂取量はとても大切なことなので記録されることを望みます。
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	当ホームの玄関スペースは整理・整頓といった観点からみて今ひとつの状態といえます。但し、自己評価に見るように「利用者同士が好きに過ごせるように常に解放している」点では、明るく暖かい共用空間となっています。	○	今後の共用スペースでの季節感の演出等とあわせて整理・整頓をさらに進めることが大切な管理施策となると考えられます。
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベットと空調機が備え付けられており、それ以外は利用者の持ち込みとなっております。全般的に簡素な使い慣れた調度品の使用により、居室はサッパリしたたたずまいとなっております。		